

## 東日本大震災福島県復興ライブラリー

# ブックガイド

No. 1

2013.2.23

福島県立図書館では、平成23年3月に発生した東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故とそれに伴う県内の被災・復興についての関連資料を「東日本大震災福島県復興ライブラリー」として、平成24年4月28日より開設しました。これまでに3000タイトル以上の資料を収集・整理し、皆様にご活用していただいております。

震災から2年の節目を迎えるにあたり、当館職員が「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の資料を実際に読み、感じたことを皆様へお伝えしようと、ブックガイドを開始することにしました。

このブックガイドが皆様の参考になれば幸いです。どうぞご活用ください。

### ■原子力問題・過去の原発事故

#### 『津波と原発』

佐野真一／著 講談社 2011.6 LS543.4/S5/1

第一部「日本人と大津波」、第二部「原発街道を往く」の二部構成からなります。そのなかの『なぜ「フクシマ」に原発は建設されたか』は、とても分かりやすくまとめられ参考になります。震災からわずか3ヶ月後の発行ですが、丁寧な現地取材とインタビュー、そして徹底して文献を調査することで、大変説得力のあるルポルタージュになっています。

#### 『フクシマの正義:「日本の変わらなさ」との闘い』

開沼博／著 幻冬社 2012.9 LS543.4/K5/2

『「フクシマ」論』で原子カムラができた経緯を明らかにした著者が、原発事故以降の動向をまとめた一冊。いわき市出身で現福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任研究員という地の利を生かして、現地のリアルな声を取り上げています。荻上チキや古市憲寿といった新進気鋭の論客との対談も収録しています。

### ■福島第一原発事故

#### 『ホットスポット: ネットワークでつくる放射能汚染地図』

NHK ETV特集取材班／著 講談社 2012.2 LS543.4/N14/1

NHK教育テレビで平成23年5月に放送された同名番組をまとめたものです。原発事故直後から取材を開始、木村真三博士と岡野眞治博士が放射線測定に尽力、福島市や飯舘村の当時の状況と二本松市の除染の取り組みが書かれています。原発事故当時30km圏内で取材を行なった貴重な記録です。文化庁芸術祭大賞、早稲田ジャーナリズム大賞、日本ジャーナリスト会議大賞受賞番組。

## ■文学・体験記

### 『F(エフ)』

松田 健次／著 いまあじゅ 2012.3 LS369.31/M13/1

原発事故の影響で物流が滞りがちだった4月当時のいわき市。そこに様々な物資を満載し、レンタカーを自ら運転していわき市に訪れボランティアをした江頭2:50。その行動力は話題になりました。この本は、江頭と行動を共にした放送作家が執筆。美談として受け止められた行動の内幕や、摩訶不思議な江頭のキャラクターが現地でも笑いを誘っていたことが分かります。

## ■メディア 報道 写真集

### 『福島民報縮刷版 東日本大震災特別編』

福島民報社／編 福島民報社 2011.6 LS369.31/F2/3

平成23年3月12日(一面見出し「巨大地震県内45人死亡370人不明」)から4月30日(一面見出し「警戒区域の9市町村 一時帰宅時期決まらず」)までの福島民報の震災関係記事を冊子にまとめたものです。読者に伝えようと尽力した記者たちの思いが伝わる、後世に残る一冊。

### 『プロメテウスの罫 明かされなかった福島原発事故の真実』

朝日新聞特別報道部／編 学研パブリッシング 2012.3 LS543.4/A1/4

朝日新聞に平成23年10月から連載された同名記事を書籍化したものです。当事者や研究者への取材をまとめ、原発事故直後に起きていたことを明らかにしました。初めて知る内容も多く、連載の当初は利用者の方から問い合わせをよく受けたり、インターネットでも話題になりました。

## ■各組織の震災対応

### 『検証新ボランティア元年』

笠虎 崇／著 共栄書房 2012.3

震災後、浜通りの避難所や仮設住宅をたびたび訪れ取材したブログが書籍化された本です。ボランティアの功罪、仕事や家を失ったことで自立心も喪失しまった一部の被災者の現状、無料で貰うことに慣れてしまう怖さなど、シリアスな内容が書かれています。

### 『人を助けるすんごい仕組み:ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか』

西條剛央／著 ダイヤモンド社 2012.2 369.31/サタ 122/

早稲田大学で教鞭をとる仙台出身の著者が、専門である心理学と哲学、そしてインターネットを支援の仕組みづくりに活用した記録集です。「家電[配布]プロジェクト」で、夏に6千家庭に扇風機を配布、「重機免許取得」では、121名(現在は500名超)が免許を取得し就業して復興に取り組んでいます。前向きになる一冊。

『東日本大震災 語られなかった国交省の記録』

道下 弘子／著 JDC 出版 2012.7 369.31/ミ 127/

東日本大震災は、広大な被災地を生み出したが、国土交通省はどのような復旧対応をしたのでしょうか。本来の道路港湾の復旧のみならず、震災直後から被災自治体に職員を派遣し(リエゾン)、必要な物資の調達をも担いました。県内は相馬市といわき市の事例が掲載されています。

■医学・健康

『低線量汚染地域からの報告:チェルノブイリ 26 年後の健康被害』

馬場朝子, 山内太郎／著 NHK 出版 2012.9 493.195/ハト 129

平成23年4月に『ウクライナ政府報告書』が公表されました。この報告書をきっかけにNHK取材班はウクライナへ、現地の人々の声を聞きに行き、NHKのETV特集で放送されました。現地の人々が肌で感じている健康被害、ウクライナの現状、チェルノブイリ原発事故の影響をどう考えているか、これからの福島への教訓を含んでいます。

■復興・防災

『「東北」再生』

赤坂憲雄, 小熊英二, 山内明美／著 イーストプレス 2011.7 LS369.31/A6/1

明治以降日本は基幹都市への人や物の資源集中によって近代化に成功しました。東北は主に食料、労働力、そしてエネルギーの供給地としての一定の役割を担ってきました。震災以後もそれを維持するのか、あるいは違う形を目指すのかが今問われています。それを考える一助となる一冊。

■その他

『木造仮設住宅群』

はりゅうウッドスタジオ／制作 ポット出版 2011.12 LS527/H1/1

県内には1万5千戸超の仮設住宅がありますが、そのうち約三分の一は木造で、県産材を使用したり、ログハウス風の魅力的なものも多いです。本書からは、設計や建築に携わった人たちが、住む人により心地よく過ごしてほしいという熱い思いを持ち、活動していることが分かります。写真や図面も豊富で、建築という視点からも参考になります。

東日本大震災福島県復興ライブラリー

# ブックガイド

No. 2

2013.6.11

## ■過去の災害

『震災復興 後藤新平の120日 都市は市民がつくるもの』

後藤新平研究会/編著 藤原書院 2011.7 210.69/コト117

関東大震災の翌日、内務大臣となった後藤新平は、帝都復興を目指し動き出しました。わずか120日の間に、現在の東京や横浜の原型を作り上げた後藤は、壊滅の首都で何を考え、どのような行動をとったのでしょうか。当時の史料を整理し、「復興」への軌跡を読み解いたドキュメントです。時代にふさわしい「復興」を目指した後藤新平の心は、新しい時代を考える糧として生きています。

## ■文学 体験記

『21人の輪 震災を生きる子どもたちの日々』

杉浦大悟/著 NHK出版 2012.12 LS369.31/S27/1

相馬市立磯部小学校の6年生が、東日本大震災による地震や津波、原発事故という過酷な状況の中で、先生や友達との絆を心の支えに、自分たちの未来を見据えながら生きていく姿を、子どもたちの心の変化とともに、卒業までの1年間を綴ったノンフィクションです。この内容は、NHKで10回にわたり特集番組として放映されました。

## ■メディア 報道 写真集

『ラジオ福島の300日』

片瀬京子とラジオ福島/著 毎日新聞社 2012.3 LS369.31/K16/1

私たちは、東日本大震災を経験して、ラジオは重要な情報源になることを知りました。この本はタイトルのお通り、2011年3月11日から約1年間、それまで誰も経験したことのない非常事態のなかで、総勢55名の社員たちが何を思い、どう伝えたのかという「ラジオ福島」の記録です。さまざまな苦悩や葛藤を抱えながらも続けた、350時間14分にわたる連続生放送の裏側が描き出されています。

## ■放射線・除染

『放射線のものさし:続 放射線のひみつ』

中川 恵一／著 朝日出版社 2012.10 539.6/ナケ 116/2

著者は東大病院放射線科の医師です。事故後、東大病院放射線治療部のスタッフとともに「チーム中川」を編成し、情報や対処法について発信してきました。また、事故後飯舘村に入り、実情を踏まえた上で、どう対応すればいいのかを考えてきました。本書では原発事故後の1年半を振り返り、反省点を踏まえた上で、これから私たちは「放射線のものさし」をどう捉え、どう考えていけばいいのかということを提案しています。

## ■復興・防災

『災害時炊き出しマニュアル:誰もができる炊き出しを目指して』

キャンパー,日本調理科学会／共著 東京法規出版 2012.8 369.3/キヤ 128/

災害支援の炊き出しボランティアを長年実施してきたNPO法人キャンパーと、日本調理科学会とが、活動の実績を基に作り上げた一冊です。状況に応じた具体的なメニュー例を紹介するとともに、被災者の心情に寄り添いながら無理なく炊き出し活動を行うためのノウハウもまとめています。その細やかさ、的確さからは、単に被災地へ行き食事を提供する、だけではない、精緻で温かな気配りを感じさせられます。災害時だけでなく、防災訓練やアウトドアイベント等での大人数調理にも活用できます。

## ■子ども向け

『放射線がよくわかる本(よくわかる原子力とエネルギー 1)』

山口竜也・平尾小径／編集 野口邦和／監修 ポプラ社 2012.3 539/ヨ/1

子ども向けの放射能・放射線に関する図書は、子どもたちに理解してもらうために、言葉や図を工夫し、難しい事柄でもできるだけわかりやすくなるよう作られています。その中でも本書は、放射線・放射能の性質やその影響についての記述だけでなく、暮らしの中で役立っている部分と危険性が高いものであるという事実をバランスよく取りあげています。また単位については、ベクレルやグレイ、シーベルトの関係や、ミリやマイクロという大きさに関わるものも併せて解説しています。大人にとっても正しく恐れるための基本的な知識が得られる本です。

東日本大震災福島県復興ライブラリー

# ブックガイド

No. 3

2013.7.31

## ■福島第一原発事故

『4つの「原発事故調」を比較・検証する 福島原発事故13のなぜ?』

日本科学技術ジャーナリスト会議／著 水曜社 2013.1 LS543.4/N25/1

1つの事故について政府、国会、東電、民間の4つの事故調査委員会が動きだし、それぞれに報告書をだしている。このようなこと事態、世界でも例がないことであるが、それぞれの立場で書かれたその報告書を比較・検証した本書の意義は大きい。

奥付に日本科学技術ジャーナリズム会議(JASTJ)について説明があるが、「いかなる権威にも拘束されないというジャーナリズムの原点に立つ、完全に独立した自由な組織として運営されている。」と記載されている。

## ■メディア 報道 写真集

『原発報道 東京新聞はこう伝えた』

東京新聞編集局／編 東京新聞 2012.11

福島原発事故直後から2012年6月末まで、東京新聞に掲載された原発関連記事や連載をまとめたもの。「原発事故取材班」は第60回菊池寛賞を受賞した。日本文学振興会はその受賞理由を「福島第一原発事故はなぜ起きたのかを調査報道の手段で探り、情報を隠蔽しようとする政府・東京電力を告発し続けた果敢なるジャーナリズム精神に対して」としている。真相を追求していく1冊であろう。

## ■農林水産業 動物

『のこされた動物たち:福島第一原発20キロ圏内の記録』

太田康介／著 飛鳥新社 2011.7 LS645/O1/1

一見、これまでと変わらないのどかな風景写真。でもやはり異様な雰囲気をはらんでい  
る・・・そこに人はいない。いるのは悲しい目をした動物たちだけ。この本は、一人の報道カメラ  
マンによる、2011年3月末から3ヶ月間の被災地での動物たちの記録です。突然飼い主と引  
き離されたペットや家畜たちの姿を見るのはつらく、また、彼らを置いていかざるを得なかつた  
人々の気持ちを想像するのともつらいことですが、フクシマの一側面の貴重な記録である  
ことに間違いはないでしょう。

## ■復興 防災

### 『辺境からはじまる:東京／東北論』

赤坂憲雄, 小熊英二／編 明石書店 2012.6 302.12/A/125

東北と関わってきた8人の若手研究者の論文を収録しています。それらに共通しているのは、「中央」と「辺境」の関係に対する問題意識です。かつて製鉄業で隆盛を誇った釜石の今昔と「復興」のゆくえ、住民参加が活発だった飯舘村から見た〈村〉のくらしと〈都会〉のくらしなど、それらは、「復興」についての多様な視点を私たちに提示します。また、巻末の赤坂氏と小熊氏の対談では、1960年代から1990年代にかけて作られてきた社会構造についてあらためて知ることができます。

### 『災害のあと始末 「暮らし」を取り戻すための復興マニュアル』

林春男／監修 エクスナレッジ 2011.5 LS369.31/H4/1

被災した人々の生活と被災地の再建を図るために、一つ一つの問題を解決しながら前に進む復興マニュアルです。「り災証明書」の申請の仕方や家屋の解体、火や水の確保など被災直後の混乱する時期に役立つ情報から、一段落した後にくる心的ストレスの対処法、保険や支援金の申請手続きなどがわかりやすく解説されています。そして、この災害から得た教訓を生かした街づくりまで考えていきます。

### 『3.11 を心に刻んで 2013』

岩波書店編集部／編 岩波書店 2013.3 369.31/イ7 133

岩波書店のホームページに、震災後毎月11日に3編ずつ掲載されている「3.11 を心に刻んで」の第2期分をまとめたものです。様々な分野の方により、書籍などから引用した言葉と3.11に思いを馳せたエッセイが刻まれています。記憶と記録、祈り、歌、未来へ託すなど様々なキーワードで綴られる言葉の中に、忘れてはいけない記憶が甦ります。